

D O N C どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

事務局 津市東丸之内 21-4 オーデンビル

3F/Siege : Oden Building 21-4

Higashi Marunouchi Tsu JAPON

N° 50 octobre 1999 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

Jeunes français, que pensent-ils de La Marseillaise ? フランスの若者たちの「国歌」観 特集

7月11日、私たちの「パリ祭」のとき、フランス音楽に関するクイズのなかで『ラ・マルセイエーズ』がテープ演奏されたところ、列席していた若いフランス人たちからブーイングがおきました。おそらく世界の国歌ではもっともよく知られ、「自由と進歩」を愛する人たちから長く愛唱もされてきたこの曲は、どうもお膝もとの若者には人気がよくないらしい。折しも日本では『君が代』の国歌法制化問題が世論を二分する様相にあり(結局論議不十分のまま可決)、国歌について深く考えて見るのも意義があるものと、私どもの周囲の若いフランス人にアンケートを試みました。その回答は内容もさることながら、彼らが国歌ひとつについても常に深く考え、それぞれ直ちに確固たる意見を表明しているに感心させられます。

質問1. は、ラ・マルセイエーズについて。

質問2. は、できれば「君が代」問題についても… という設問でした。

(回答の意識と見出しは編集部)

Ariane de MARIGNY アリアヌ・ド・マリニーさん

アヌシー出身、リヨン大学学生。企業研修のため来日、この夏四日市近鉄百貨店などで研修した。

国民のコンセンサスに問題

1. 二つのことが思い浮かびます。歌詞が暴力的なこと、この歌への国民的コンセンサス(合意)のことです。よく考えてみると、多分フランス人もこの歌詞をよく聞いていないのでは！

2. リヨン大学(政治学科)でこの問題について知識を得ました。6月末に私が日本へ来てから、会った多くの日本の人が国歌のことを気にしていました。でも彼ら自身、この微妙な問題について一つの見解をもつことは難しいのだと告白しております。



Elodie SERGENT エロディ・セルジャンさん

パリ出身、マルセイユとイギリスの大学で学んだ後、イギリスの分析機器メーカーに就職。EUの日本研修プログラムに合格して来日、この夏四日市の化学工場での研修をした。

歌詞が納得できるかどうか

『君が代』問題はラ・マルセイエーズの問題にたいへん似通っています。フランスの国歌について、私は歌詞を変えるべきだという意見です。

この歌は好戦的で、そのためわが国の諸々の理想にじっくりしないような気がします。一般に、自分が何を歌っているのか理解し、その歌詞を納得できることが大切です。私は、みんなが伝統の上に安住するのではなく、国歌というものの役割をよく考え、ふさわしい歌詞を見つけるべきだと信じます。

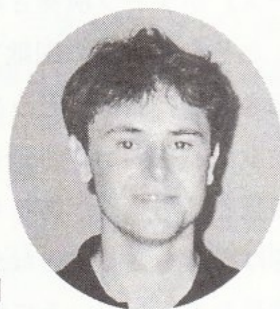


Antoine FARON アントワヌ・ファロン君

フランス大学卒。マルセイユで公務員。長期休暇を取ってことし来日、日本語を習得した後、10月から大阪のアリオン・フランセーズでフランス語講師に。8月、縁あって?!三重県に訪。

祖国防衛の歌だった

1. ラ・マルセイエーズはしばしば好戦的だと非難されますが、これは祖国防衛の問題であって外国を攻撃するものではありません。私の好みを言えば、その音楽のものの形はあまり美しいとは思えません。むしろジャンゴ・レイナールのジャズ・バージョンのが好きです。
2. 『君が代』問題について正確な知識はありません。ただ私は、その歌の言葉が古めかしくて多くの日本人にもほとんど理解できないのではないかと思います。



Agnès MARTIN アニェス・マルタンさん

グルノーブル出身の高校生。ロータリー・クラブの青少年交流事業で来日、ホームステイしてメリノール女子高校に通学。

現代のフランスにそぐわない

1792年4月、C-J.ルジェ・ド・リールによって作られたラ・マルセイエーズが公式に国歌と見なされるようになったのは第三共和制以後のことです。こんにちでは、七節(クプレ)あるうちの三つの節が、ルフラン(繰り返し部分)とともに歌われています。しかし、世界が平和を希求しているこの時代にフラン



スの国歌はショッキングです。幸いにしていまでは歌われない何節かは 18 世紀フランスのナショナリズムを喚起しますが、今日ではファッショ的な響きを感じられます。この歌詞によれば外国人は残酷・粗野と見なされ、フランス人はみな英雄なのです。

大体においてフランス人は第1節とルフランは知っていますが、大多数の人はその後続く何節かがあることさえ知りません。それが極めて稀にしか歌われないからです。(私もそれらを聞いたことがありません。)

フランス国歌は、時代とともにその重要性を失ったものと私は考えます。(サッカーの国際試合のときぐらいしか聞くこともできないのです。)歌詞の重要性とともに、そのインパクトも著しく失われたのです。一人一人のフランス人が第一節を理解しているのか、あるいはそれが意味もわからない言葉の羅列に過ぎないのか、今問い直すべきでしょう。

結論として、私の意見は—17 歳のフランス女性として考えるのですが、ラ・マルセイエーズは現代の世の中に対してずれており、その歌詞を朗唱することにあまり興味のないようなフランス人にとっては「マイナー」なものだと思います。さらにこんにちこの歌を誇らしげに歌うようなフランス人は、疑いもなくそんな歌詞がお気に入りの極右の闘士くらいでしょう。

ラ・マルセイエーズの“問題の歌詞”を第一節のみ原詩と意識で紹介します。

(1er COUPLET)

Allons enfants de la Patrie,
Le jour de gloire est arrivé!
Contre nous de la tyrannie,
L'étendard sanglant est levé, (bis)
Entendez-vous dans les campagnes
Mugir ces féroces soldats?
Ils viennent jusque dans nos bras
Égorger nos fils, nos compagnes!

(REFRAIN)

Aux armes, citoyens,
Formez vos bataillons,
Marchons, marchons!
Qu'un sang impur
Abreuve nos sillons!

(第1クプレ)

行け、祖国の子らよ
栄光の日は来た!
われらに対し暴政の血にまみれた
旗が掲げられた(繰り返し)
どう猛な兵士らのうなり声が
野原で聞こえるだろう?
奴らはわれらの腕の中まで
息子や友ののどを切りにくるのだ!

(ルフラン)

武器を取れ、市民たちよ
隊列を組め
進め、進め!
不浄の血が
われらの田畑を浸さんことを!

フランス訪問団8名で出発 各地で多彩な日仏交流めざして

本誌前号でお知らせしましたが、三重日仏協会メンバーによるフランス親善旅行団がいよいよ近く出発、プロヴァンスなどフランス各地で交流を深めます。

メンバーは8名で、10月23日関西空港を発ってマルセイユに直行、その後リヨン、パリを回って31日帰国予定。この間、南フランスでは、昨年の『日本におけるフランス年』に津市で「太陽の地プロヴァンス…日本展」を本会と共催した＜EDET・プロヴァンス・ジャポン協会＞（会長・エチエンヌ・ルボブ氏）の主催するマルセイユでの交流会、さらにグラブゾンという町で町長主催の歓迎会に出席することになっています。またリヨンでは一昨年『フランスにおける日本年』の事業でともに活動した＜リヨン日仏文化交流会＞のメンバーや、三重県に研修生を派遣しているリヨン大学の関係者らと交流することになっています。

ポール・ハーゲンミュラー ボルドー大学名誉教授 が近く来県 「日仏」メンバーとの交流をご希望

固体化学の世界的権威でボルドー大学名誉教授 Paul HAGENMULLER ポール・ハーゲンミュラー氏は、11月初旬京都で開かれる電池学会で講演するため来日されますが、三重大学工学部と深いお付き合いがあるため三重県にも数日滞在されます。同氏はかねてより三重日仏協会の活動に関心を寄せておられ、この機会にメンバーと交流したいとの希望を伝えてこられたため、事務局で歓迎準備を進めています。詳細は未定ですが、11月7日(日)から10日(水)の間で、歓迎夕食会と、フランス語の勉強をかねてお話を聞く会などをもつ予定です。

参加ご希望の方は運営委員の武田さん(059-231-2248)、滝沢さん(059-225-2517)まで問い合わせてください。

催事予告

10/27(水) セドリック・ティベルジャン ピアノリサイタル

1998年ロンティーボー国際コンクール第一位入賞、いま注目の若手ピアニストの演奏会が今回日本では名古屋だけで開催されます。主催者アリアンス・フランセーズ名古屋のご好意で三重日仏協会会員は学生並みの2,500円で鑑賞できます。

お申し込みは 052-781-2822 A.F.名古屋まで。

10月27日 18時45分 開演

しらかわホール (名古屋市中区栄-9-15 TEL 052-222-7110)

プログラム: バッハ、フランク、リストの作品

一般4,000円 学生2,500円

11/13(水)~12/23(木) 企画展『パリのカフェと画家たち』

—— モンマルトル、モンパルナス、サンジェルマン・デ・プレ ——

三重県美術館

一般800円 当日1,000円